

気功と鍋島焼

12/15/2016

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

このタイトル名「気功」と「鍋島焼」の関係は何かと思われるか知りませんが、私がこの2年間に興味を覚えた2つなのです。今回は、そのことについて書きたいと思います。

【気功】

中国の代表的な健康法のひとつに気功があります。太極拳と同様、日本ではポピュラーなものになっています。きっかけのひとつは、5年前に知り合った人がガンを患ったにも関わらず、気功をおこなうことで治癒したこと。ふたつ目は仕事で「マインドフルネス」の創始者ジョンガバットジン教授の日本での講座開催をお手伝いしたことにありました。気功というと、テレビ等の番組であるように、気力で人を投げ飛ばすというイメージがありますが、私が行っている気功は、純粋なもので自分の力にあるものを、気功を通じて調身(身体を整える)、調息(呼吸を整える)、調心(気持ちを和らげる)することなのです。にやり始めて2年近くが経ちますが、ゆっくりとした運動の中、あらゆる筋力がストレッチしていくようすがわかります。そのような効用のおかげか、90分の気功のあとは眠たくなります。気功の中でも種類はいろいろあるようで、ここ1年間は「馬王堆導引術」が中心でした。鶴や虎などの動物の動作を取り入れたもので、ゆっくりとした動作の中に、呼吸法を取り入れています。90分の講座の終わりでは、「瞑想」があり、これで頭の中がスッキリします。最近、ストレス解消のひとつとして「マインドフルネス」の導入を行う企業もあるようですが、これも瞑想のひとつなのです。



発表会での風景

鍋島焼 代表的な「色絵草紙文」
17世紀後半から18世紀前半



(戸栗美術館)許可済み

【鍋島焼】

私は、九谷焼の産地である石川県小松市の出身ですので、幼い頃から、徳利や酒盃、また調度品である大皿に、赤茶色や濃い緑色の独特の焼き物を見るのは慣れた光景でした。

2015年、箱根にある岡田美術館を訪れました。その際陶磁器の鑑賞には驚くものがありました。中国や朝鮮の磁器の他に、「鍋島焼」の十数点は、色使いが美しく気品ある器だったことです。その後、何回か同美術館に通いましたが、いつも「磁器」もののコーナー中心の鑑賞です。そのようなおり、都内で東洋の陶磁器を専門に展示している「戸栗美術館」の存在を知りました。この美術館では、約7000点もの陶磁器を所有しており、「何でも鑑定団」でおなじみの中島誠之助さんが関与されていますし、その娘さんである森由美さんも、器の歴史などを説明してくれています。最近、ここのアートサークル会員となり、鑑賞の機会を増やしており、そして陶磁器の歴史などを勉強しています。

鍋島焼は、もともと伊万里焼(現在の佐賀県)のもので、鍋島藩が将軍家などに献上していたものなのです。藩の解体とともに鍋島焼の名前はすたれましたが、現在では、鍋島焼の担い手として伊万里市内には、20軒余りの工房があるそうです。今度、訪れたいと思っています。以上

妻が買ってくれた
現代の鍋島のぐい呑み

